

土建屋の手にはスコップ？

★滋賀県 湖東 野洲川
☆野洲川ダム上流

花崗岩の透き通る川を横目に、側道のカーブをシフトダウンで攻める。

曲がりくねった二車線をはやる気持ちでひた走り、お自当の駐車場に飛び込んだ。

「よっしゃ〜・・・今日は土建屋だけや〜釣りはおらん！」

野洲川上流、旧鈴鹿スカイラインのゲート跡の川沿いに芝生のスペースがあり、ここの駐車場に車を停めて川に降り、そこから上流がお気に入りのポイントだ。

但し、支流もなく川が一本の為、先行者が居る／居ないで釣果に歴然とした差が出てしまう。

「この日は土建屋のトラック一台だけだった。」

(もう、もうった様なもんだ)と「獲らぬアマゴの鱸算よ」・・・だいたい、こう言った傲慢な神経が散々な目に会う事を知っていながら、それでも懲りずに有頂天・・・

そんなくそと仕度を済ませ、大好きな花崗岩の清らかな流れで深呼吸、もはや気分は最高潮・・・頭の中は水面で反転するパーママークを

イメージし、今か今かと刹那を積み重ねて時間だけが過ぎていった。

小一時間が過ぎてても、ベストスポットに投げたアントパラシュートは何事もなく足元に流れ下る。

いい加減イライラして来た。

「なんでや?・・・どないしてん?」

先行者の後追いならいざ知らず、今日この状況では理解できない。本当ならアマゴの二機嫌が悪くても、イワナが少しは出るはずだ。

程なく、ここを出なけりゃ何処で出る?と言う様な一級ポイントに出くわした。以前に良型のイワナを上げてからお気に入りのポイントで、その後も何度かアマゴを仕留めている。

案の定、フライの下に潜水艦が浮上する様にイワナが浮いてきた・・・

「喰えー!早よ喰わんかい!」・・・

ところが、どうしたことかしゃっかりブレイキが掛かり、視察任務完了宜しく潜水艦は姿を消した。

「なんじゃい?今日は水面を割らんのか?・・・そおでつか?・・・そお来るか?」

今度はウェットに変えて様子を見ようと投げた途端にドロッパーがはじかれた。

ひとしきりやって、この場を見限り釣り上げる・・・入深からすでに2時間を過ぎていた。

「?・・・足跡?・・・新しいな?・・・いや?」

ここに入るんならあそこに車を停めるはずや・・・今日は土建屋だけやったしな、先週のかあ?・・・雨降ってないし・・・」

さして気にも留めずそのまま釣り上がって行った。

しかし、全く調子が出ない。何時しか自然に風潰しに毛鉤を置いて行く様になっていた。

「よっしゃ〜・・・」漸く小ぶりのアマゴが獲れた。しかし、その後も竿抜けで申し訳程度しか出てくれない。

もう直ぐ護岸工事をやっている工事現場があり、団食をとる為にそこから道に上がり、駐車場に戻った。

落胆と納得いかない状況に悶々とカップラーメンをすすっていると、背後の土建屋の車のあたりで話し声がする。

土木作業の格好をした二人組みが車の荷台からスコップを出してこれから例の護岸工事に出かけるところに見えた。

すると、スコップを車に立てかけ、今度は何かを車の背後から持ち上げて荷台に乗せた。

その瞬間を見て、思わず口に入れたラーメンを噴出し、咳き込んでしまった。

それは・フライロッドとウェイダー・だった。

一人が咳き込んだ私を見て・・・

「ああ、これからですか？・私ら朝から、この前を釣り上りましたんで、そろそろ時間も空いて行けると思いますが。」

今から上手の工事に出ますけど、今日は結構当たりましたよ・・・頑張って下さいー」

と笑顔で挨拶をくれた。

「おおきに・ちよつとやってみまっか・」
としか返し様なかったが、心の中は（土建屋がフライロッド持って仕事の前に釣りすんなー）と、精一杯の負け惜しみ！
やっぱり修行が足りないようだ。

■野洲川上流の二案内

いつも国民宿舎「かもしか荘」で日券を購入する際に記帳する名簿で、運出の我々でもある程度その日の入渓者の数がわかるが、油断は出来ない。

圧倒的に御在所岳を越えて三重側からやってくる釣りが多く、滋賀側から入る関西方面の方々はお隣の愛知川に比べると非常に少ないと感じる。

旧鈴鹿スカイラインのゲート前から入り、釣りあがると堰堤まで早くて4時間、遅ければ6時間くらい釣場である。

お隣の愛知川で言えば、渋川・神崎・八風谷と同じく、白っぽい川で木立も多いが明るい溪

で、黒っぽい毛鉤が見やすい。

中程に低い堰堤がありそれを超えて暫く行ったところ辺りから魚影が濃くなる。

花崗岩の透き通る流れで溪相としては私が一番お気に入りの川であるが、難点は頭上にある旧鈴鹿スカイラインを通る車の音・・・鳥のさえずりもかき消される状況に少し気分を害するが、それでも魚は結構居て、先行者が居なければ漁獲は堅い。

イワナは良型もであるが、あまごは20cm前後・・・しかし、ここは明らかに2種、異なるあまごが釣れる。

ひとつはブルーバックの精悍な感じ、もうひとつは端麗美形の淡いブラウンを背負ったベージュの水彩画の様なあまご・・・気になって仕方なく、わざわざ漁協に確認してみた。するとこのポイントは漁協が稚魚放流を行っており、ブルーバックは稚魚放流、しかしブラウン&ベージュは在来種とのことだった。この在来種を釣りたければ、もう少し下流を狙うとよいとのこと、但し、野洲川ダムの干上がったチャラ瀬が何処までも続くのでポイントはむずかしい。

結局、いつも入渓する下手に堰堤があり、かなり下手からそこまで釣りあがると、運がよければお目文字できる。但し稚魚も多く、在来種だけあって非常に魚影は薄い。

サイズを求める釣り師にはお勧めできないが、

初夏の頃、花崗岩のミネラルウォーターで小ぶりながら端麗美形を探るのが、これまた楽しくやめられない。

しかし、一昨年に在来種を釣ってから、久しく無沙汰なので、来シーズンは久しぶりに逢いに行かなアカンね・・・

2006年 10月

